

SEISHUN! 献血



未来を育む
あなたの献血



誰かを笑顔に

その献血で

プレゼント

山口県立防府西高等学校

3年

白井^{しらい}

彩^{あや}

さんの作品

山口県健康福祉部薬務課
日本赤十字社山口県支部
山口県赤十字血液センター



「若者の皆さんの献血へのご理解とご協力が必要です。」

献血は、病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんのために、健康な人が無償で血液を提供する身近なボランティアです。

輸血に使われる血液は、現在の科学技術でも未だ人工的に造ることができず、長期保存することもできないため、全て日々の献血により賄われています。

そのため、全国では毎日約14,000人、山口県では約150人の献血協力が必要とされ、献血で得られた血液は、多くの命を救っています。

こうした中、昨年度、県では約49,000人の方々に献血にご協力いただき、医療に必要な血液を確保しているものの、少子化の影響により献血可能人口が減少していることに加え、これからを支える10代～30代の献血者数は、この10年で約6,000人も減っており、このままでは近い将来、血液を必要とする患者さんに、血液を届けることができなくなるおそれがあります。

そこで、県では、「周りの人たちの献血行動に良い影響を与える高校生」を「**献血インフルエンサー**」と命名し、献血につながる一歩を後押しする取組など、若年層の献血者確保に努めています。

皆さんには、身近な社会貢献として、ぜひ献血にご協力いただくとともに、体質等の理由から献血ができなかったとしても、献血の大切さについて友人や家族と一緒に考えることで、献血の輪を広げていただきたいと思います。

献血は、「命をつなぐボランティア」です。
一人一人の行動が、血液を必要とする患者さんの命につながります。
皆さんの温かいご協力をお願いします。



日本赤十字社 山口県支部長
村岡 嗣政（山口県知事）

INDEX

献血キャラクター

けんけっちゃん

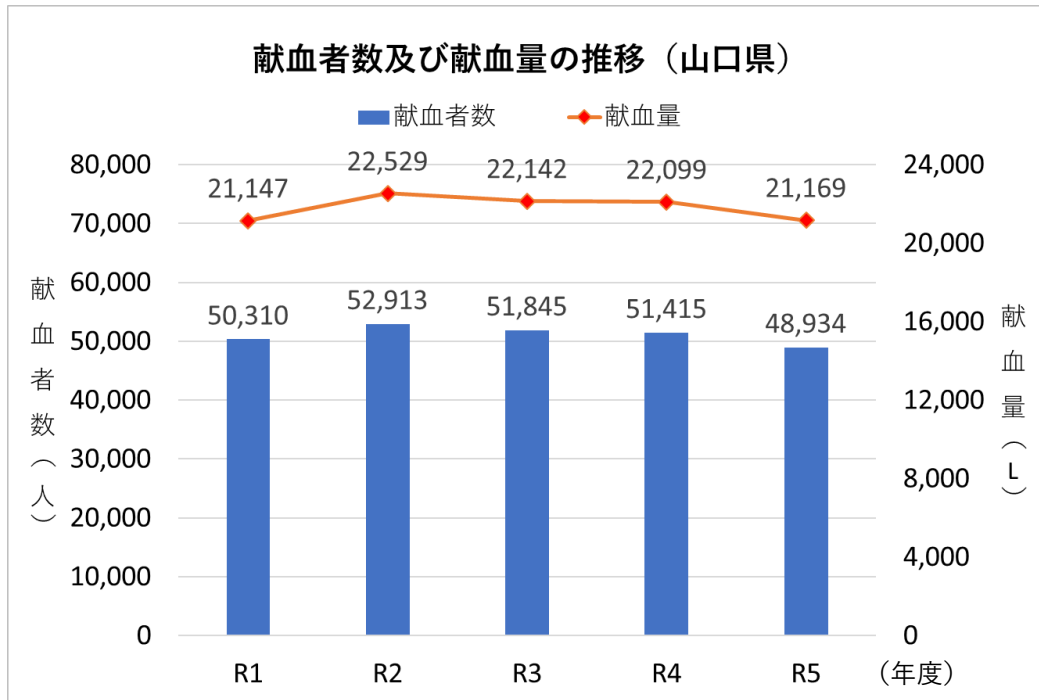


山口県の献血状況	1
献血のことQ & A	2～3
高校生献血推進ボランティア事業について	4～8
献血インフルエンサーについて	9～10
令和6年度献血推進ポスター・作文入選作品	11～18
日本赤十字社山口県支部からのお知らせ	19～20
山口県赤十字血液センターからのお知らせ	21
献血ができる場所について	裏面

山口県の献血状況

献血者数・献血量の推移

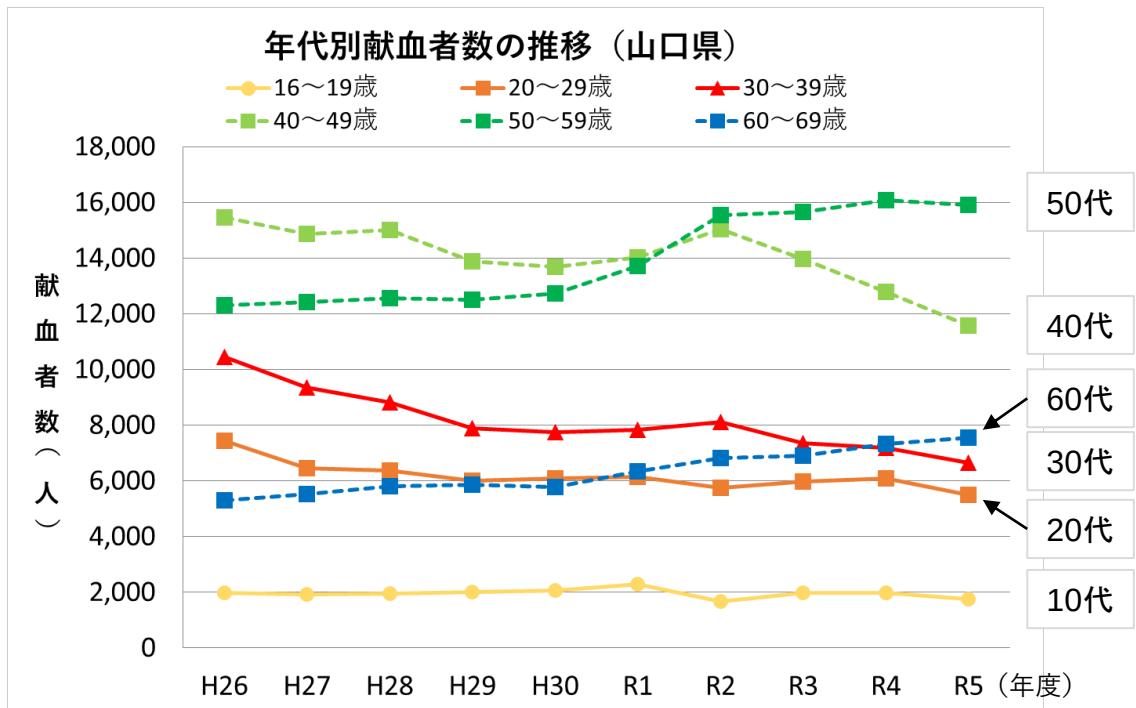
山口県の献血者数は年間5万人前後で推移しています。



年代別献血者数の推移

近年、少子化の進行により、献血可能年齢（16歳～69歳）の人口が年々減少しており、特に、20～40代の献血者数は大幅に減少しています。

今後もこの状況が続くと、将来、輸血用血液の安定的な供給に懸念が生じます。



献血のことQ&A



なぜ献血が必要なの？



献血は、病気の治療や手術などで血液を必要としている人へ、自ら進んで血液を提供することです。

血液は人工的に造ることができず、長期保存することもできないため、輸血に必要な血液を十分に確保するために、継続的に多くの方からの献血への協力が必要です。



献血は何歳からできるの？



200mL献血は16歳から、400mL献血は男性は17歳、女性は18歳からできます。

※年齢や体重のほか、血圧、血色素量、献血間隔など、採血基準に適合した人ができます。

		200mL 献血	400mL 献血	血小板 成分献血	血漿 成分献血
年 齡	男性	16歳～69歳※	17歳～69歳※	18歳～69歳※	18歳～69歳※
	女性		18歳～69歳※	18歳～54歳	
体 重	男性	45kg以上	50kg以上	45kg以上	
	女性	40kg以上		40kg以上	

※65歳～69歳までの方は、60歳～64歳までに献血経験がある方に限ります。



詳しい
献血基準は
こちらから



献血はどこでできるの？



献血は、全国の献血ルームまたは献血バスで実施しています。

県内の献血ができる場所については、裏表紙をご覧ください。





献血には、どれくらい時間がかかるの？

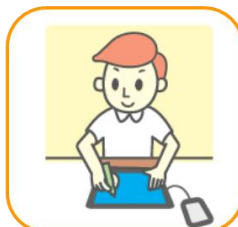
400mL献血で、採血時間は15分程度です。
問診や検査の時間も合わせると約40分です。

採血は
全血献血で
15分程度
だっち！



献血の流れ

1 受付・質問への回答



健康診断（問診・事前検査※）

2 〔事前検査では、全血献血は指先穿刺、成分献血は〕
静脈穿刺により採血します。



3 採血

全血献血：10～15分
成分献血：40～90分



4 休憩



5 献血終了



「ラブラッド」って知っている？

「ラブラッド」は、日本赤十字社と献血者をつなぐ、Web会員サービスです。
アプリを登録して会員になると、次のメリットがあります。

なお、献血可能年齢未満の方でも、「プレ会員」として登録できます。

会員になると...

- 献血の予約ができます
- 問診の回答が事前にできます
- 過去の検査結果等を含む献血記録が確認できます
- ポイントを貯めて記念品と交換できます

プレ会員とは...

- 献血に関するクイズに答えたり、コンテンツを閲覧できます
- 献血可能年齢に到達すると初回献血の予約ができます



ラブラッドアプリのダウンロードはこちらから



高校生献血推進ボランティア事業

今、献血の一番大きな問題は、献血に協力してくれる若い人たちが減っていることです。

未来の献血を支える高校生に、そしてより多くの人に、献血のことを知ってもらい、参加してもらうために、高校生ボランティアが文化祭等の行事を活用して、献血に関する啓発活動を行いました。

また、校内献血に理解が得られた学校では、献血も行いました。

開催時期

令和6年4月～令和7年3月

※各学校の文化祭や地域イベントに併せて実施

参加校名

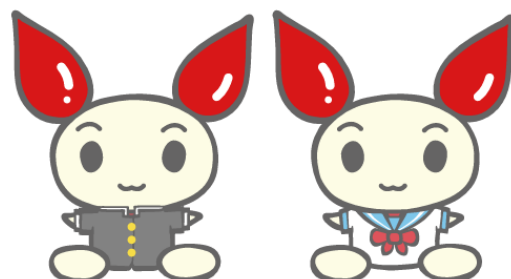
👉👉 高水高等学校 山口県立岩国商業高等学校 👉👉 山口県立高森高等学校 👉👉 山口県立岩国工業高等学校 👉👉 山口県立熊毛南高等学校 👉👉 山口県立柳井商工高等学校 👉👉 柳井学園高等学校 👉👉 山口県立田布施農工高等学校 👉👉 山口県立周防大島高等学校安下庄校舎 👉👉 山口県立華陵高等学校 山口県立徳山商工高等学校 山口県立光高等学校 👉👉 山口県立下松工業高等学校 👉👉 山口県立熊毛北高等学校 👉👉 山口県立南陽工業高等学校 👉👉 山口県立防府高等学校 野田学園高等学校 👉👉 山口県鴻城高等学校 👉👉 高川学園高等学校 山口県立西京高等学校	山口県立山口中央高等学校 👉👉 山口県立防府西高等学校 山口県立山口高等学校 山口県立山口松風館高等学校 山口県立山口農業高等学校 慶進高等学校 👉👉 山口県立宇部商業高等学校 👉👉 宇部フロンティア大学付属香川高等学校 👉👉 山口県立宇部工業高等学校 山口県立大津緑洋高等学校大津校舎 👉👉 長門高等学校 山口県立大津緑洋高等学校日置校舎 👉👉 山口県立萩商工高等学校 山口県立萩高等学校 👉👉 萩光塩学院高等学校 山口県立下関中等教育学校 👉👉 山口県立山口農業高等学校西市分校 👉👉 下関国際高等学校 👉👉 早鞆高等学校
---	--

👉👉 は献血セミナー実施校、👉👉 は校内献血実施校
(令和6年12月末時点 決定分)

実施内容

- ・ 献血セミナー受講
- ・ 献血啓発パネル・ポスターの展示
- ・ 献血啓発DVDの上映
- ・ 献血クイズの実施
- ・ 献血啓発ティッシュ等の配布
- ・ 校内献血の実施

等



高校生献血推進ボランティア！活動の様子

5月

5月22日(水)、11月30日(土)
山口県立萩商工高等学校

献血セミナー、啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。パネル展示等を通じて、献血の内容や現状をよく知ることができた。



5月30日(木)、7月、8月29日(木)
山口県立熊毛南高等学校

献血セミナー、生徒作成ポスターの展示、校内献血を実施した。病気と闘っている人の支援ができるように、積極的に献血に参加したいと思った。



6月

6月7日(金)
山口県立下関中等教育学校

啓発パネルの展示、献血クイズ、啓発資材の配布を実施した。自身の体のしくみを理解し、献血の意義や献血への関心が高まったと思われた。



6月8日(土)
山口県立防府高等学校

啓発パネルの展示、献血クイズ等を実施した。献血クイズはパネルを読むことで回答できるよう工夫して作成したことから、作成者のみならず、来場者も献血について理解を深める機会になった。



6月8日(土)
山口県立萩高等学校

啓発資材の配布を実施した。献血を通じて社会貢献できることをもっと周りに知らせていくとともに、社会全体で献血の重要性、大切さをもっと広めていく必要があると思った。



6月14日(金)、15日(土)
野田学園高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。高校生でも献血ができるということを伝えられた。人間の血は、人間の体でしか作られないので、献血は必要であり、命のボランティアをしてみたいと思った。



6月

**6月16日(日)
慶進高等学校**

啓発資材を配布し、献血の必要性を呼びかけた。活動を通じ、献血について訴えることで、献血についての認識が深まった。



**6月17日(月)
山口県立柳井商工高等学校**

献血セミナーを実施した。献血ボランティアに参加するにあたり、献血の現状や献血の種類等、基本的な知識を知ることができた。



**6月17日(月)、7月18日(木)
柳井学園高等学校**

献血セミナー、校内献血を実施した。実際に献血で命が救われた人の気持ち等が聴けて、自分達が血を分けることで救われる命が何人もいるなら、注射針が怖くても勇気を出して献血に挑戦してみてもいいと思った。



**6月22日(土)
萩光塩学院高等学校**

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。活動を通じ、在校生や来場者に献血について意識していただくとともに、呼びかけをした生徒自身の献血に関する知識や意識も高まったと思った。



7月

**7月14日(日)
高川学園高等学校**

啓発資材の配布を実施した。一人ひとりに啓発資材を手渡しすることで、献血に関心をもってもらえたと感じた。



**7月19日(金)、12月5日(木)
山口県立田布施農工高等学校**

献血を実施した。献血で輸血が必要な人の役に立てるだけでなく、血液検査を通して自分の健康状態を知ることができるのも良いと思った。



8月

8月31日(土)
山口県立西京高等学校

啓発パネルの展示、啓発動画の上映、
包帯止血法の実演・体験等を実施した。
大人も献血経験がない人が多く、献血の
重要性を広めていく必要があると思った。



8月31日(土)
山口県立山口中央高等学校

啓発パネルの展示、啓発動画の上映、献
血クイズ等を実施した。高校生でも献血がで
きるということを知ってもらって、少しでも協
力する人が増えるといいと思った。



9月

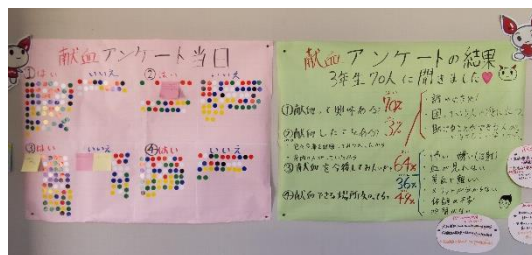
9月3日(火)、4日(水)
山口県立光高等学校

啓発資材の配布、生徒作成ポスターの
展示等を実施した。献血について、まだ
ハードルが高いと感じる人が多く、啓発
活動を進めることで、徐々に前進してい
くことが必要と思った。



9月7日(土)
山口県立大津緑洋高等学校大津校舎

献血クイズ、献血アンケート、献血診断
シートの作成・配布等を実施した。献血アン
ケート等を作成するために、献血について調
べたことでより詳しく知ることができた。



9月8日(日)
山口県立山口高等学校

啓発パネルの展示を実施し、多くの人の
目に留まったと感じた。今後、献血を
促進する活動も計画してみたいと思った。



9月30日(月)、11月9日(土)
長門高等学校

献血セミナー、献血クイズ、献血パネルの
展示等を実施した。献血ボランティアに参加
して、献血について基本的な知識を学ぶこと
ができ、献血に挑戦しようと思った。



10月

10月31日(木)

山口県立山口松風館高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。今回のように生徒だけでなく、保護者に対しても啓発ができると高校生の献血者数が増えるのではないかと感じた。



11月

11月15日(金)、

12月12日(木)、13日(金)

山口県立岩国工業高等学校

献血セミナー、校内献血等を実施した。献血セミナーの感想を掲示することで献血を身近に感じられ、興味を持ってもらえるよう工夫した。



11月16日(土)

山口県立山口農業高等学校

啓発パネルの展示、献血クイズ等を実施した。準備や当日の活動を通じて、献血を身近に感じてもらうとともに、高校生でも協力することができることを知ってもらえた。



11月16日(土)

山口県立宇部工業高等学校

啓発パネルの展示、啓発資材の配布等を実施した。昨年も啓発活動を行ったが、意外と献血のことを知らないのが、これからもPRしていこうと思った。



11月16日(土)

山口県立大津緑洋高等学校日置校舎

啓発パネルの展示、献血クイズ等を実施した。普段献血に触れる機会が少ない生徒に最新の情報を提供することで、献血に興味・関心を持ってもらう良い機会になった。



献血インフルエンサー

県では、若年層の献血行動につながるきっかけづくりを目的に、「周りの人たちの献血行動に良い影響を与える高校生」を「**献血インフルエンサー**」と命名し、その増加と育成に取り組んでいます。



今年度は、やまぐち献血ルームFor youにおいて、県内の高等学校等に通学する生徒を対象に、「**高校生献血サマースクール**」を開催しました。本イベントでは、実際の設備を使用した模擬献血体験や普段立ち入ることのできない場所を含めた施設見学等を行いました。

1 模擬献血体験



2 施設見学



3 献血セミナー／献血ルームで働く職員との意見交換



参加者の感想

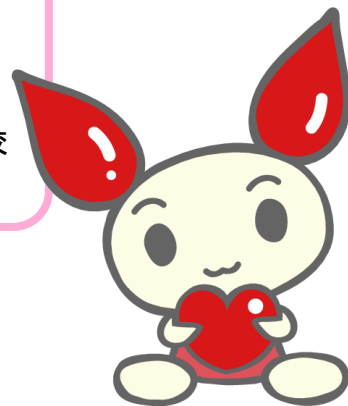
- 献血をして、たくさんの人の手助けをしたいと思った。
- 知らなかった献血の裏側を見ることができて、とても興味深かった。
- 「献血ってどうやるんだろう」という疑問や不安があったが、参加していろいろなことを知れて非常に勉強になった。献血を広げていけたらと思う。
- 献血のイベントで献血運搬車等の装備を見せたり、普段の活用を見せると興味がわくと思った。

高校生献血サマースクール参加校

山口県立華陵高等学校
山口県立西京高等学校
山口県立松風館高等学校
山口県立山口南総合支援学校
野田学園高等学校

山口県鴻城高等学校
山口県立厚狭高等学校
サビエル高等学校
山口県立下関工科高等学校

献血インフルエンサーに関する
情報はこちらから



令和6年度 献血推進ポスター入選作品



山口県立防府西高等学校3年

しらい あや
白井 彩



岩国市立岩国中学校3年

くば ゆりえ
久芳 由里衣



下関短期大学付属高等学校3年

うらさき ねね
浦崎 寧々



平生町立平生中学校2年
かしわばら
柏原 たから



宇部市立楠中学校2年
はせがわ このん
長谷川 琥音



下関市立長府中学校2年
はやし このか
林 瑚乃香



「献血サマースクールで学んだこと」

サビエル高等学校 2年 おおぐま ほのか
大熊 萌加

私が献血について知るきっかけになったのは学校でのマイプロジェクトという活動です。医療系の職業に興味があった私は将来に活かしたいという思いから、献血をテーマにすることにしました。

家族や自分自身も全く献血と関わりがなく、正直献血のことは何も知らないままマイプロジェクトは始まりました。日本赤十字社のホームページなどを見て献血についての情報を集めたり、どのような取り組みがあるのかを調べたりしました。そうしていくうちに、若者の献血離れが大きな問題になっていることを知り、その問題を中心にプロジェクトを進めていくことにしました。

まずは自分が献血についてしっかり知らなければ、と思い、夏休みに行われた高校生献血サマースクールに参加しました。献血ルームの見学や模擬献血体験、献血セミナーなどを通して、山口県内の献血状況や血液が運ばれるまでの流れを詳しく知ることができました。セミナーでは若者の献血率の低さが問題となっていることがグラフであらわされており、若者の献血離れをより大きな問題としてとらえることができました。そしてこの献血サマースクールで一番印象に残っているのは献血ルームで働く医療従事者の方との意見交換会です。医療従事者の方に「私たち高校生に献血の推進のためにできること、またはしてほしいと思う事を教えてください」と質問した際、「高校生のみなさんはまず献血について関心をもつ、知ることから始めてほしい。そのために今日学んだことをまずは家族や友人に伝えてほしい。」とおっしゃっていました。そこで改めて献血インフルエンサーとして周りの人に献血について知ってもらわなければという思いが強くなりました。

この夏の高校生献血サマースクールは私にとってとても大きな学びの場となりました。今まであまり関わりのなかった献血をより詳しく、身近に感じるきっかけになりました。若者の献血離れが問題になっている今、献血インフルエンサーになった私に何ができるのか。私はより多くの人に献血について知ってもらうことだと思います。献血に怖い、痛い、という印象をもっている人も多いと思います。ですが、献血は手術やけがなどで困っている方のいのちをつなぐ、重要な役割を担っているものでもあります。そのことが頭の片隅にでも入っていれば、ふとしたとき、献血行ってみようかなと思う瞬間があるかもしれません。献血サマースクールでの貴重な経験を活かして周りの人にもこの献血の輪をつないでいきたいです。

この先、どんな職業に就くのか、どんな人生を歩んでいくかは分かりませんが、この高校生献血サマースクールは私にとって忘れられない経験になりました。



「献血について」

山陽小野田市立埴生中学校 1年 ^{しらた}白田 ^{ゆう}悠

作文を書くにあたってなぜ僕がこの献血の作文を選んだのかというと、献血に少し興味があり助けを求めている人を助けてあげたいと思ったからです。

そもそも献血がどんなことで、何の役に立っているか分からない人もいると思うので、説明します。まず献血とは、病気の治療や手術などで輸血や血漿分画製剤を必要としている患者さんのために、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。また、献血が必要な理由は、輸血に使用する血液は、まだ人工的に造ることができず、長期保存もできないから、そして近年、血漿分画製剤のひとつである免疫グロブリン製剤の必要量が急激に増加しているため、輸血等に必要な血液を確保するためには、一時的に偏ることなく献血に協力してもらう必要があるからです。

ここまで話を聞くと、献血に対して賛成の声や反対の声があるけれど、僕は献血には積極的に取り組むべきだと思います。その理由は三つあって、一つ目は自分自身にメリットがあるからです。献血をすると、「血液検査が無料で受けられる。」「健康診断ではわからない項目が把握できる。（併用できる。）」「血液中の異常値が把握できる。」この三つのメリットがあり、自分も相手も幸せになることができます。

二つ目は、いろいろな人達を助けることができるからです。一人一人が献血に協力することで、多くの血が集まり、さまざまな病気で苦しんでいる人達を助けることができます。

三つ目は、いまよりもよりよい社会になると思うからです。現在、あまり人と人との助け合いや支え合いが少なくなっていると思うので、この献血というものを通して人々が自然に助け合えるような社会になるとよいなと思います。

このような理由から僕は、一人一人が献血への意識を高めたほうが良いと思いました。だからこそ自分も献血をしたいと思ったけれども、200mLの輸血は16歳から、つまり高校生からなので少し残念です。今献血をすることはできないけれども、献血についていろいろな人について知ってもらうことも、献血がまだできない人やできない人達ができる活動だと思います。

最後に、日本だけでなく、まだあまり献血が進んでいないいろいろな外国でも多くの助けが求められているかもしれません。そこで、僕は将来少しでも多くの命を助けるために、献血の仕事にたずさわっていきたいと思います。しかし、それは、かならずしも一人ではできないことではないと思うので、保護者や先生、友達など、いろいろな人への感謝の気持ちを忘れずに、生活していきたいです。

今はまだ苦しんでいる人達が多いけれど僕達が大人になったときは、輸血で苦しむ人達が少なくなる未来になるようにこれからがんばっていこうと思いました。



「若い力が救う命 ～献血の未来を築く～」

山口県立下松高等学校 1年 まえはら 前原 こはる 心春

私は週末になるとショッピングモールによく行く。すると、駐車場の一角に献血バスが停まっている光景を目にすることがある。また、献血について広めるためにチラシや風船の配付も行われており、私もチラシをもらったことがある。「献血」という取り組みが行われていることは以前から知っていたものの私は献血にまつわる知識が全くなかった。

しかし、そんな私にチャンスが巡ってきた。それは、学校でボランティアの募集があったことだ。夏休みに献血のボランティアが行われると知り、取り組みに対する理解や関心を深め、今後に生かしたいという思いで進んで申し込んだ。

そして当日、私は法被を着て看板を持ち、ショッピングモール内でティッシュの配付を行った。はじめは出入り口付近で行ったが、五人に一人くらいのペースでしか受け取ってもらえなかった。声をかけても断られたり、中には無視されたりと、とても悲しい気持ちでいっぱいになった。その時に「私だったらどうするんだろう。」と考えてみた。「おそらく受け取らないんだろうな。」というのが正直な気持ちだった。理由を挙げるなら、強く勧められると断りにくく、申し訳ない気持ちになるから、というところだろう。よく企業の勧誘活動に対して断る人が多いのを目にして私と同じように考えている人は少なくないのではないかと考えた。「多くの人に献血という存在を知ってもらいたい」という一心で、よく目にする出入り口での配付をやめ、店内を周りながら配付することで気軽に受け取ってもらえるのではないかと考え、行動に移した。するとこの作戦は大成功で、はじめと比べてかなり多くの人に受け取ってもらえるようになった。しかし、献血には様々な条件があるため、すべての人が献血できるわけではない。実際に、「昔はやっていたけど、もう七十歳を過ぎたからできないんだよ。」と言う方もたくさんいた。そこで、大切になってくるのは若年層の協力だと思う。スタッフの方によると、現在の二十代の献血率は最も低く全体のわずか五パーセント。逆に最も高いのは五十代だそうだ。しかし、「例年五十代あたりが献血率が高い」というわけではないようだ。どうやら現在五十代の方は、二十代の頃からずっと高い献血率を保っているらしい。この話を聞いたときはとても驚いたが、同時にこのままだと献血率は下がるばかりだという危機感をもった。そこで、若いうちから習慣的に献血することが大切だと考えた。

今回の経験を通して、まずは若い世代を中心に一人でも多くの人に「献血」について知ってもらうことが大切だと思う。「献血をする」ということは、「人の命を助ける」ことにつながる。血は人工的に作ることができないうえに保存期間が短い。そのため、多くの人の協力が必要不可欠だ。私は困っている人の役に少しでも立つために、年齢の条件を満たしたら、献血に貢献していきたいと思う。



「ボランティアから学ぶ」

柳井学園高等学校 1年 おかむら ゆいか
岡村 唯花

私は、レオクラブというボランティアをする部活に入部しています。ボランティアの募集のなかに、献血の呼びかけをするものがあったので、初めて参加をしました。献血の呼びかけをしたことで、知らなかったことや気付いたことが多くありました。

献血とは、病気の治療や手術などで血液が必要な人のために、健康な人が血液を提供することだということです。そのことは、もともと知っていました。献血の呼びかけをしながらティッシュを配っているとき、下を向いてスルーする人が多く、献血をしようという意思や大切さを理解している人は少ないことが、はっきりとわかりました。

「献血のご協力、お願いします。」と呼びかけていた時、年齢制限があるからできないという声を多く聞きました。そこで初めて、献血は誰でもできるのではなく、制限があることを知りました。献血することができるのは、十八歳から六十九歳の方だけです。また、体調不良、服薬中、特定の病気にかかったことのある方などは、献血することができません。献血をする人が少ない中、しようとしてもできなかった人が、とても多かったです。ボランティアをしているとき、十代、二十代よりも五十代、六十代の方々のほうが、献血をしている人が多いと感じました。実際に、十代、二十代の献血をする人が少ないということを示したデータもあります。少子高齢化が進む中、若い世代に献血の大切さを伝えていく必要があると思います。また、献血を初めてする方や、二十回、三十回、四十回目という方もいました。定期的に献血する人を増やしていく必要があると思います。呼びかけを聞いて献血をしようと思った、と多くの方に言ってもらいました。若い世代に献血に対する理解と協力を求めるために、様々な場所で献血を呼びかけたり、献血についてのポスターを貼ったりするなど、耳で聞き、目で見ること、意識や理解を深めていきたいです。

私には、看護師になるという夢があり、夢を叶えるために勉強しているところです。医療に携わっていく身として、ボランティアなどで献血の必要さを理解できる人を増やせるよう、これからも呼びかけていくことを続けていきたいです。また、気軽にでき、さらには誰かの命も救うことができる、献血という社会貢献を私たち若い世代が中心になり、活発に参加していかなければならないとも思っています。私はまだ十六歳で、献血することはできません。献血することができる年齢になったとき、積極的に参加し、少しずつ社会に貢献していきたいです。



「献血推進」

柳井学園高等学校 2年 むらかみ 村上 くうみ 昊海

最近、献血の大切さについて学びました。献血することで他の人の命を救うことができるのだと知って、とても感動しました。だから、私たち若い世代も献血に積極的に参加すべきだと思います。

献血は誰でもできる身近な社会貢献の一つです。たった数十分の時間で、多くの人の命を救うことができます。血液製剤は病院で治療に必要な患者さんに提供されています。そのため、私たちの協力が本当に必要なのです。

また、献血することで自分自身も健康チェックができるという利点もあります。定期的な献血は自分の健康管理にもつながります。何か異常が見つければ早めの対処ができ、健康的な生活を送ることができます。

献血は他者への支援だけでなく、自分自身のためにもなる行動なのです。そして、献血することで社会貢献を果たし、誰かの命を救う喜びを味わうことができます。私たち若い世代が率先して献血に参加することで、社会全体がより良くなることを期待しています。だからこそ、これからも積極的に献血を推進し、たくさんの人々の命を支える存在になりたいと思います。一人ひとりが小さな力を合わせて、大きな影響を与えることができます。それが私たちの力なのです。

そして、献血をした人の話を聞いて、ますますその大切さを実感しました。彼らは献血を通して多くの命を救うことができ、その経験から人々の役に立つことの喜びを知っていました。私も彼らのように誰かのために何かできることがあれば、絶対にやってみたいと思いました。

献血を通して、自分の成長にも繋がることできるなんて、とても意義深いことだと思いました。誰かのために何かできることがあるのならば、その機会を逃さずに行動することが大切です。私たちの小さな一歩が、誰かの命を救う大きな一歩になるかもしれません。



「一緒に献血に参加しよう」

柳井学園高等学校 3年 ^{ふじた}藤田 しおり

みなさんは、献血について考えたことはありますか？

学校や駅に、献血を呼びかけるポスターが貼られていたり、ショッピングモールでティッシュ配りをしながら、献血を呼びかけるボランティアの方々を見かけることがあると思います。そのため、献血という言葉は多くの方が知っているのではないのでしょうか。献血とは、病気の治療や手術などで輸血や血漿分画製剤を必要としている患者さんに、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアのことをいいます。

私は先日学校で、献血のセミナーが行われ、急性リンパ性白血病を発症し、輸血を経験された一人の女性の体験談を聞きました。その女性が、「起き上がるのがしんどいくらいでも、輸血をしてもらって体が温まって、唇に色が戻って、とにかく元気になる。人間の血ってすごいんだなと思った。ぜひ私たち患者に命を分けて欲しい」とおっしゃっていました。その言葉を聞き、輸血があることで元気づけられている人、命を救われている人がいるのだと感じました。人の命を救うと聞くと、難しく感じるけれど、私たちも献血を通して、人の命を救うことが出来るのだと思いました。

現在の日本では、少子高齢化が進んでおり、輸血を必要とする高齢者が増加傾向にあることに対し、献血に協力する若い世代の人々は減少しています。特に、十代～三十代の若年層の献血者数は、この十年間で約三十二%も減少しています。献血に協力する人が少ないということは、救われる命も少なくなってしまうと考えれば、悲しい気持ちになりました。そのため、これから、SNSを通して、献血の流れや献血の必要性を広め、若い世代が献血してみたいと思えるような工夫をしていくと良いのではないかと思います。

私は、七月に学校で行われた献血に参加してみようと申し込みました。しかし、血管が細く、針のサイズに合わず献血をすることが出来ませんでした。また、手が冷たいため、温かくしないと出来ないと言われて看護師さんに教えていただきました。献血は「やりたい」という気持ちだけでは出来ないものなのだと、知ることができました。だから、しっかりと睡眠をとり、食事をとって自分自身の健康を保ちたい、と思うようになりました。次、またチャンスがある時は、自分のコンディションを整えて献血に参加したいと思います。

みなさんも自分自身の体調を整え、命を救うため、一緒に献血に参加してみませんか？



日本赤十字社は、世界 191 の国と地域にある赤十字社の 1 つで、日本赤十字社法という法律に基づき設置された認可法人です。東京に本社を置き、全国 47 都道府県に支部があります。赤十字の施設には、赤十字病院、血液センター、社会福祉施設などがあり、人々のいのちと健康を守るために事業を行っています。災害発災時の救護活動、世界のネットワークを活かした国際活動、皆さんのいのちと健康を守る救急法等の講習会及び防災・減災セミナーの開催など、赤十字活動は多岐にわたっています。また、これらの活動は、皆さまからのご寄付やボランティアの方々によって支えられています。

日本赤十字社山口県支部の主な活動

災害救護活動

災害が発生すると、医師・看護師などで編成された救護班（1 個班あたり医師・看護師ら 6 人）を派遣し、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動などを行います。

また、救援物資の配布や義援金の受付をし、被災者への支援を行います。



各種講習会



“いざという時” 命を守るための救急法や高齢者への介護技術を習得できる健康生活支援講習など、各種講習会の普及に取り組んでいます。

赤十字奉仕団活動



災害に備えた炊き出し訓練や地域の美化活動、社会福祉施設訪問など赤十字事業を支え、地域のニーズに応じた活動を行っています。

国際活動



紛争や自然災害等の緊急時における救護活動に加え、各国赤十字と連携し、地域に根差した取組みを行っています。

青少年赤十字活動



全国の幼保・小・中・高の学校等の教育現場約 14,000 校、約 350 万人の子ども達が「気づき・考え・実行する」の態度目標のもとに活動しています。

赤十字活動に関するお問い合わせ

日本赤十字社山口県支部 TEL 083-922-0102

身近な仲間の赤十字活動

山口県内の青少年赤十字加盟校（小学校 111 校、中学校 37 校、高等学校・支援学校 36 校）の生徒（メンバー）が各地域で様々な青少年赤十字活動を行っています。

加盟校募集中！！



リーダーシップ・トレーニング・センター



山口県内加盟校のメンバーが、共同生活の中で様々なプログラムを体験し、リーダーシップを養っています。

国際交流活動



世界の人びととの友好親善の精神を育成します。

防災教育



子どもたち自らが災害からいのちを守るよう楽しみながら学べる防災教育を展開しています。
（写真は、地域の幼稚園児に防災の大切さを伝える萩高校の生徒）

山口県青年（学生）赤十字活動

山口県内の大学生・社会人のボランティアと一緒に活動する団体です。現在は山口大学と山口県立大学の学生赤十字奉仕団のメンバーが中心となり活動しています。もしかしたら、皆さんの先輩も活躍しているかも…！？

赤十字PR活動



赤十字が行っている、災害救護・AEDの講習・献血などを多くの方に知ってもらう広報活動や研修を行っています。

街頭募金



国内外の災害や海外の紛争などで苦しんでいる人を救うため、学内や街頭で募金活動を行っています。

研修会の開催・受講



研修会のなかで赤十字や防災、国際人道法についての知識を深めたり、今後の活動について意見交換を行っています。

身近な社会貢献活動～中古本等の買取による寄付プログラム「キモチと。」～

この取り組みは、使用しなくなったもの（中古本、CD等）をブックオフに買い取っていただき、その買取額が赤十字に寄付されるプログラムです。

詳しくは、「日本赤十字社山口県支部」ホームページのバナーをクリック⇒



日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。



大学・短大・専修学校生のボランティア団体

山口県学生献血推進協議会～フクラブ～

山口県内の大学・短大・専修学校のボランティアの学生さんたちが、同年代である10代20代の方を中心に、多くの方に献血をしていただけるよう活動しています。

街頭献血

年4回、学生主体での街頭献血キャンペーンを企画し、献血の呼びかけを行います。



役員会

月に1回程度役員会を開催し、街頭献血キャンペーンに向けて、話し合いを行っています。



県外学生との交流

各県代表による学生会議が開催され、県外の学生と交流して、献血活動を充実させています。



フォロー&いいね
お願いします！

X
YamaGakusui



instagram
yamagakusui





献血ができる場所



移動採血車（献血バス）

山口県内各地の事業所やショッピングセンター等を日々巡回しています。



献血バスの配車予定は、山口県赤十字血液センターのホームページをご覧ください。

ブラウザで検索する

献血バス 山口県 🔍

二次元コードから検索する



または、山口県赤十字血液センターフリーダイヤル ☎0120-456-122までお問い合わせください。



やまぐち献血ルームFor you

カフェのような空間で、リラックスしながら献血ができます。



受付時間：〈成分献血〉9:00～11:30／13:00～16:00
〈全血献血〉9:00～12:00／13:00～17:00
※定休日：木曜日（令和7年8月以降は火曜日）

所在地：山口県山口市野田172-5

アクセス：〈JR山口線〉山口駅から車で5分
〈防長バス・JRバス〉「日赤前」バス停から徒歩5分



献血に関する動画

献血に関する動画をYouTubeにてご覧ください。

二次元コードから検索する

献血推進プロモーションチャンネル_日本赤十字社



献血に関するお問い合わせ

最寄りの各市町窓口・県健康福祉センター（環境保健所）

山口県健康福祉部業務課 ☎083-933-3018

山口県赤十字血液センター ☎0120-456-122

～あなたの献血で、ひとりの命が救われます～